

高等学校 保健体育（科目保健）
単元名 「応急手当」（心肺蘇生法）」（第1学年）*

*学年の指定はなく原則として入学年次及びその次の年次履修することになっている。

1. 単元の目標

- (1) 応急手当について、実習を通して理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身につけることができるようにする。
- (2) 安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。
- (3) 応急手当について、課題解決に向けた学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 応急手当の意義、手順や方法、さらに、自ら進んで行う態度、社会の救急体制の整備や、それを適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ② 日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることについて、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、応急手当ができる。 ③ 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、AEDなどを用いた心肺蘇生法ができる。	① 応急手当について、個人及び社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している。 ② 安全な社会生活について、自他や社会の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、筋道を立てて説明している。	① 応急手当について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3. 指導と評価の計画（4時間扱い）

	主な学習内容・学習活動	知	思	態	評価方法
1	1. 応急手当の意義、手順や方法について知る。 2. 応急手当が必要な場面に遭遇したとき、どのような行動が必要になるかを考える。	①			観察 ワークシート
2	1. 2人1組でダミー・AEDを使用した心肺蘇生法の実習を行う。 2. 実習で出た課題について考える。				観察 ワークシート
③	1. 課題解決方法を意識した心肺蘇生法の実習を行い、撮影したものを確認する。 2. 新たな課題を発見し、今後も心肺蘇生法が的確にできるようにするための方法を考える。	③	①		観察 ワークシート
4	1. 身近にある物を使用して止血・固定などの基本的な応急手当について実習をする。 2. 体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順について理解する。 3. 安全な社会にするための方法について考え表現する。	②	②	①	観察 ワークシート

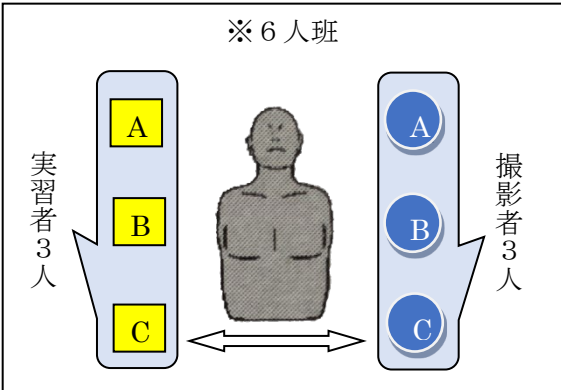
※主体的に学習に取り組む態度の評価については、内容のまとめり全体を通して総括することとした。

4. 本時の指導案（3／4時間）

(1) 本時の目標

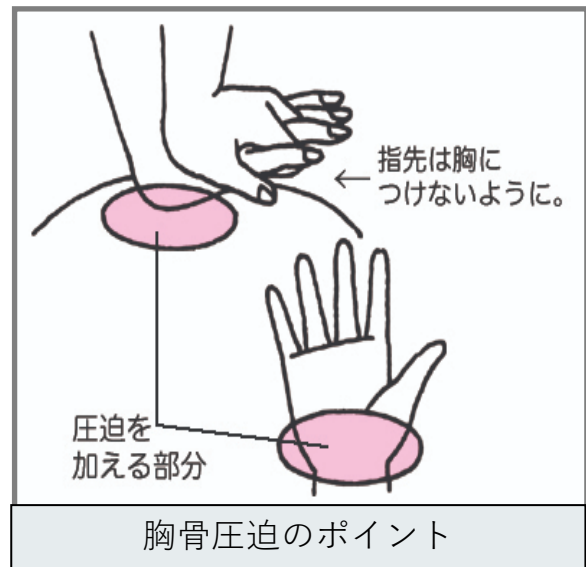
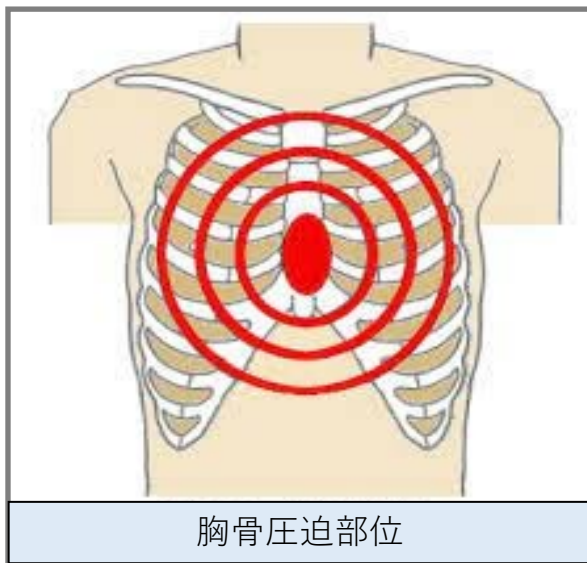
- 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用が必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。
- 応急手当について、個人及び社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見することができるようにする。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援 (◆評価規準と方法)
導入	1 前時の学習内容を振り返る。 ・フォームの集計結果をパワーポイントを使って課題を確認する。	全体	○前回の授業では、中学校での実習経験がどの程度、できているのかを実習を通して確認している。学習を振り返りながら、課題を明確にして本時の実習を行うようにする。その際、フォームの集計結果をスライドで見せながら説明する。
展開	2. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【学習課題】 心肺蘇生法の意義や手順を理解し、課題に応じて速やかで的確な心肺蘇生法ができるようにしよう。 </div> 3. 課題を意識した心肺蘇生法の実習を以下のように行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 1. 班をつくる（6人班※下図） 実習者3人と撮影者3人 （実習後、撮影と役割は入れ替わる） </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 2. 実習（5分間）×2（役割交代） 実習者と撮影者 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 3. 課題の共有 撮影したもののペアで確認・評価 </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">※6人班</div>  </div>	班ペア	○ダミーとAEDがそれぞれ6体必要になる。今回は消防署と自治体から借りる。 ○実習を通して、その意義や手順などの内容について理解を深め速やかで的確な心肺蘇生法ができるようにする。 ○前時の課題を意識して実習を進めるようにする。特に速やかな行動と正しい手順を意識した実習を行う。 ○実習が複数人数で実施することで、一人で行うことの大変さと複数人数で協力することの効果について触れる。 ○撮影者は、実習者を撮影するときに一方向だけにならないように角度を変えて撮影できるようにする。 ○撮影したものをペアで見て、課題が意識されているか、前時に比べて技能の改善がみられたか確認する。 ◆知識・技能-③（学習活動3） 【観察・映像】
	4. 実習を評価し、新たな課題について考える。	個人	○前時のフォームで回答した集計

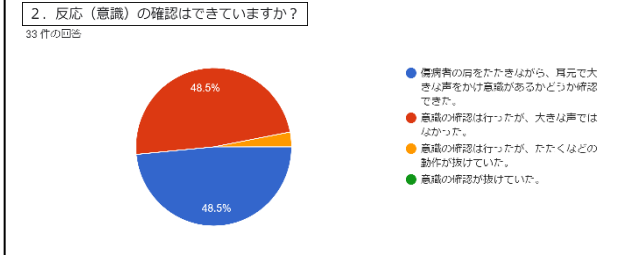
	<p>フォームに入力された結果を集計し、前時の結果と見比べて評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【発問】目の前の人を助けるために、大切だと思うことは何ですか。</p> </div> <p>〈想定される生徒の意見〉</p> <p>個人の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 方法や手順について定期的に確認をする。 AEDの場所を確認しておく。 大きな声や勇気を出して行動する。 心肺蘇生法に関する情報について関心をもつ。 <p>社会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職先や自治体で心肺蘇生法の実習などが行える仕組みをつくる。 AEDの数を増やしたり、必要性について、もっと周知できるような仕組みをつくる。 	<p>全体</p> <p>班集体体</p> <p>結果と本時の結果を、スライドを見せ、比較しながら実習を振り返る。特に、課題となっていたポイントについては、改善されているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人の取組だけでなく社会的な対策にも関連付けて、課題を発見できるよう促す。 ○話合いが進んでいないグループに、気付いていないポイントがないかを促す。また、対話が進んでいる班の意見を全体の場で取り上げて、違う考え方に気づくことができるように留意し、学習内容が対話的で深い学びとなるようにする。 <p>◆思考・判断・表現-①(学習活動4) 【観察・ワークシート】</p>
<p>まとめ</p>	<p>5. 本時の学習のまとめをする。</p> <p>〈振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義や手順が理解できたか。 ・課題に応じて速やかで的確な心肺蘇生法ができたか。 ・救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性が理解できたか。 	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心肺蘇生法は、速やかで的確に行う必要があることについて確認する。 ○心肺蘇生法を実施することができるようにするために、重要な要素や課題について確認する。

(3) 資料 (実習時提示)

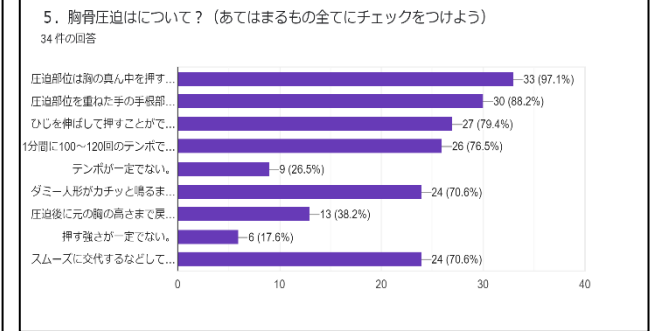
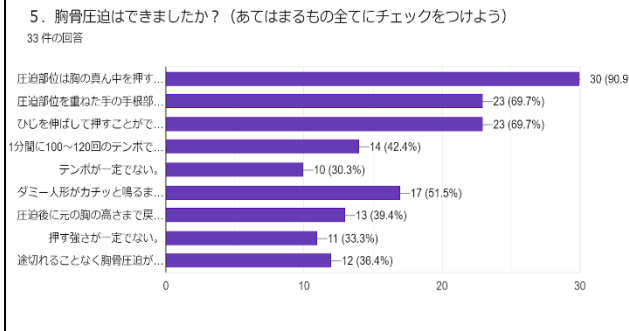
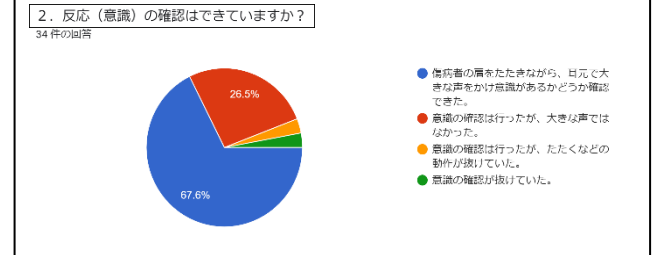


(4) スライド (抜粋)

【2/4 授業時アンケート】



【3/4 授業時アンケート】



【その他のアンケート例 3/4 時】

